

## バラのアーチング方式での同化専用枝の管理技術

同化専用枝の折り曲げ時の生育ステージ及び摘らい処理の有無の影響

### 1. はじめに

アーチング方式<sup>2)</sup>では、同化専用枝から株もとに転流する同化養分を利用して伸長するベーサルシュート<sup>4)</sup>(以下BS)を切り花として利用する。このため、同化専用枝<sup>3)</sup>での同化生産量の維持とそこから株もとへの、同化養分の転流量の確保が切り花収量及び品質に深く関係している。本試験では、同化専用枝を折り曲げる時のシュートの生育ステージ及び折り曲げ時の摘らい<sup>5)</sup>の有無とその後の分枝量との関係を調査した。

### 2. 試験方法

平成6年8月3日に10cm角のロックウールキューブに「ローテローゼ」を挿し木し、9月25日に最初に発生したシュートが各生育段階(花らい小豆大、花らい着色)に達した株を選び、シュートを株もとから下方に折り曲げた。さらに、花らい米粒大のステージ区に摘らい後折り曲げた区を設定した。栽培は、吸水マットから養液を吸わせる底面吸水法で行い、折り曲げ後発生した同化専用枝の分枝長を調査した。

### 3. 結果の概要

処理後、同化専用枝の先端部が上方に曲がって伸長を始めた。処理2週後に垂直方向への伸長量を測定したところ、花らい米粒大時処理区で7.7cm、花らい小豆大時処理区で5.6cm、花らい着色時処理区では1cmとなり処理時の生育ステージが若い区ほど先端部が強く曲がった。なお、花らい米粒大時に摘らいして折り曲げた区では3.6cmとなり、折り曲げ時の生育ステージが同じでも摘らいすることにより先端部の曲がり弱かった。

摘らいを行わなかった3区における各節位の分枝の伸長量をみると、処理後2週目頃から上位節での萌芽が始まり、処理後4週頃まで他の節位より優先して伸長した。その後、基部節位(株もとに近い位置)の伸長量が他の節位よりも増加し、処理6週後には基部節位の伸長量が他の節位よりも多くなった。また、処理時のステージが進んでいた区ほど、

同化専用枝の分枝が早くから始まり、最終の伸長量も多くなる傾向にあった。なお、処理時に摘らいを行った区では、処理時の生育ステージが若かったにも関わらず、処理3週目以降にはどの節位においても他の区に比べて分枝長が多くなった。

### 4. おわりに

以上の結果同化専用枝を確保する場合シュートの生育ステージが若いとその後の分枝量が低下することが明らかになった。また、作業上若いシュートをも折り曲げる必要がある場合は摘らい後折り曲げることで分枝量を確保できるものと思われる。

(園芸部 嶋本 久二)

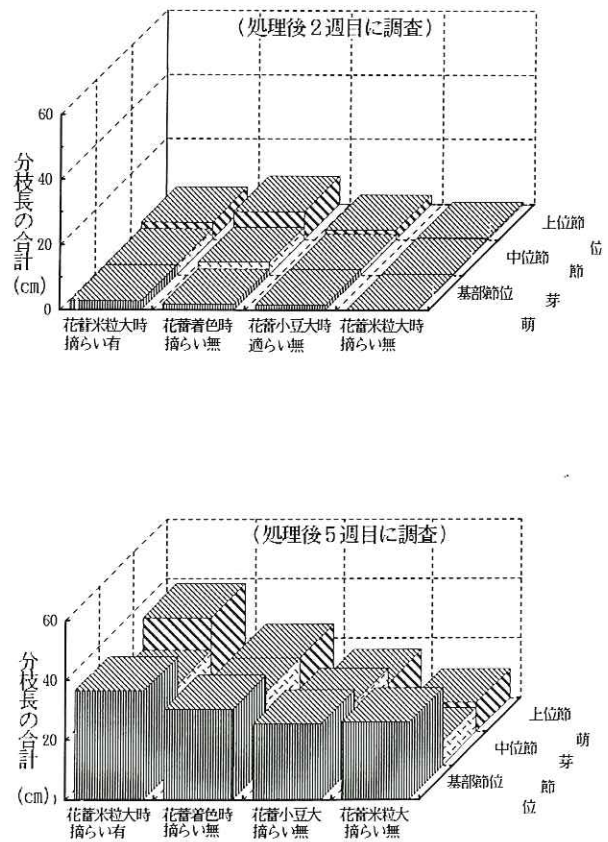


図 同化専用枝の折り曲げ時のステージと摘らいの有無がその後の分枝に及ぼす影響。